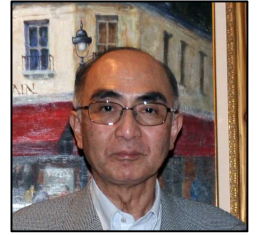


Die (友情) Freundschaft

事務局：
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3
秋田公立美術大学 野村研究室内
<http://www.jdg-akita.org>
(018)888-8110
nomura@akibi.ac.jp

パッサウ市との姉妹都市提携 35 年まであと 1 年

会長 添野武彦



故高田景二市長さんのご尽力で築き上げられたパッサウ市との姉妹都市提携は、早いもので来年には35周年を迎えます。当時の主力メンバーもそろそろ老境に入る時期となった一方、当初、小学生としてパッサウ市を訪問した児童も今ではすっかり人の親となり、世代交代の流れは人を待たず進んでいます。将に『歲月人を待たず』です。この間、5年毎に両市では交互に訪問しあい、数多くの公式行事を行ってきました。また、個人的に彼の地の方々と、深い家族的な繋がりを作られた方々もいらっしゃいます。昨年の活動を挙げてみますと、1、男鹿市へのブレーメン号によるドイツ観光団寄港に際しての接待行事への協力、2、秋田市国際フェスタ～姉妹都市交流展～への参加と、パッサウから来た Hana Siegler 嬢率いる2名の高校生の宿泊を含めたサポート、3、日本ユネスコ協会主催の『歌でつながる世界』という行事への参加。勿論、当協会の総会を始め、夏季のビール会など独自の行事などを行い、活発に活動してきました。就中、これらのうち私達独自の行事に、野村事務局長の大きな後押しもあり、美術大学学生など若人の参加が多くなってきたことが特筆すべき事柄でした。このような若者たちを積極的に勧誘していけば、何人かは将来も残って、私達の有力なメンバーになってくれるものと期待しています。

国際交流は、創設期は様々なエネルギーが集約し一定のところまで盛り上がりますが、さて、その後の組織としての機構・運営を維持するためには、設立時並みまたはそれ以上の労力を必要とします。このことを考えるとき、私共の秋田日独協会はどうでしょうか？幸いなことに、佳き先輩、佳き事務局、何にも増してドイツを知悉している方々に恵まれています。

ともすれば組織の老齢化を憂いなければならない事

が多いのですが、私を含め、元気な壮年・老人パワーがまだ全開でがんばっています。それに加えて、前述しましたように、若者は少ないながらも常に参加してくれていることが、将来への希望だろーと思えます。

さて、いよいよ来年 2019 年には、姉妹都市提携 35 年にあたって、私達・秋田日独協会がパッサウを訪問する番となります。35 年間は人生で考えると一世代が終わり次世代への世代交代を迎える期間であります。そこで私は、今、私達の持てる力を結集するイベントを実行し、若者を交えた交流を行ってきたいと考えました。予めから申し上げていますが、単に訪問して旧交を温め良い思い出を作ることは重要ですが、何かを皆で一緒になって成し遂げた、という達成感・充実感を味わってもらいたいのです。そこで、大ボラを吹いた感じですが、かのシュテファン大聖堂で《シューベルトのミサ曲》をドーム合唱団と一緒に歌えないものかと、ラウシャー会長さんをお願いしておりました。すると、最近、この夢が実現する方向の色良い返事が来たのです。将に【瓢



聖シュテファン大聖堂
(www.quermania.de/bayern/passau/より)

【箆から駒】です。今後さらに詳細を詰めて、立派な演奏会にしたいものと思っています。そのためには、この曲は混声四部合唱ですから、総勢 30~40 名弱の人数が必要と考えます。現在の日独協会会員の参加を大いに期待します。でも人数的に不足するのは目に見えていますので、学生さんたち、市内の合唱団に個別に働きかけメンバーを募りたいと考えています。勿論、そのうちの何人かは、当協会にそのまま参加してくれればな

どと、虫の良い事を目論んでいるのですが。

それは兎も角、はっきりとした目標を見据えて、これから1年数カ月準備に邁進したいと考えています。来る姉妹都市提携 35 年記念行事は、皆さんが参加して良かったと印象に残るものとしてゆきたいと思います。

では、今年も楽しく、協会を運営して行きますので、皆様の積極的なご参加、ご支援宜しくお願い致します。



《会員よりご寄稿いただきました》

「南ドイツ滞在記」

会員 河村 希典

平成 28 年 8 月にドイツパッサウ市青少年スポーツ交流団のホストファミリーになったことをきっかけに、ドイツを訪問してみたいと思い始めました。秋田大学では、国際的な視野を持った若手教員を支援する研究者海外派遣事業があり、応募したところ、幸運にも採択されました。そのため、カールスルーエ工科大学との共同研究を目的に、平成 29 年 5 月 29 日~9 月 30 日までの 4 ヶ月間、南ドイツのバーデン=ヴュルテンベルク州のカールスルーエに家族で滞在しました。カールスルーエは、ドイツ連邦共和国の最高裁判所に該当する連邦憲法裁判所や連邦裁判所がある重要な「司法首都」です。市街地の中心に宮殿があり、その宮殿を中心に道路が放射状に伸びる計画都市として知られています。交通の便は非常によく、市街地は KVV ترامが街を行き交い、中央駅から ICE (インターシティエクスプレス) を利用すると、1 時間ほどでヨーロッパ金融市場の中心であるフランクフルトに到着します。

カールスルーエ工科大学は、工学系では現在ドイツで評価が高い大学として知られています。私がお世話になった Wilhelm Stork 教授らのグループでは、『マイクロマシーン技術と光学システムの融合に関する研究』のプロジェクトを立ち上げており、『マイクロセンサシステム技術を用いたヘルスマニタ』等の研究開発を行っています。W.Stork 教授は、2 か所に大きな研究室をもち、ポスドクとコー

スドクターが 25 名、マスターコースの学生が 25 名おります。年間約 200 万ユーロ、年によっては 300 万ユーロの研究資金を企業とドイツ政府の研究機関より援助されており、非常に潤沢な研究室でした。基礎研究よりは応用研究に軸足を取っており、多くの共同研究をしている参画企業から製品を世に出していました。ドイツに滞在中、大学・研究所における産学連携と研究・教育現場について意見交換を行うことを目的として、アルベルト・ルートヴィヒ・フライブルク大学の Ulrike Wallrabe 教授、アーヘン工科大学の Wilfried Mokwa 学部長の研究室を訪れ、学内での招待講演、産学連携と教育現場について意見交換を行いました。また、ダルムシュタットにある世界有数の化学メーカ、メルク本社にて私の研究内容の説明の他、意見交換を行いました。

1 歳、3 歳、6 歳、9 歳の 4 人の子供を連れてのドイツ滞在でしたが、長男と次男は、ドイツに着いてから 4 日後に地元の小学校 Realschule Rüppurr に入学させました。言葉が通じなく、意思疎通ができなかった次男は初め泣いてしまいましたが、他の子供たちがフォローしてくれて、ドイツ語の挨拶と 1~5 までの数字を覚えて帰ってきました。長男と次男は楽しかったと、満面の笑みでした。さて、休日とはいうと、ドイツ三大名城の一つホーエンツォレルン城、ドイツ国内最大のテーマパークであるヨーロッパパーク、ベンツミュージアム、ライン川クルーズ、マインツのゲーテンベルク博物館、ハイデルベルク城、パッサウへの旅行等々・・・家族で楽し

んできました。

ドイツ滞在中に、松島フリッツ照子・カールスルーエ独日協会会長にお会いし、自宅での夕食会に招待してもらいました。さらに、秋田市の姉妹友好都市であるパッサウ市を訪問した際、パッサウ市庁舎大ホールにて Erika Träger 副市長、Sibylle Rauscher パッサウ独日協会会長、同協会の会員の方々が歓迎行事に参加してくれました。その時の記事が、パッサウ市役所の公式サイトとパッサウの地元新聞に掲載されました。その夜は、平成 28 年にホストファミリーで受け入れたセヴェリン君のお宅に招待され、ご両親の方と楽しい夕食会となりました。

最後に、カールスルーエ独日協会及びパッサウ独日協会を紹介して頂いた添野秋田日独協会会長、渋谷副会長、野村事務局長に感謝申し上げます。



アーヘン工科大学 Wilfried Mokwa 学部長の居室にて



カールスルーエ宮殿の前のカフェで昼食 (Wilhelm Stork 教授のスタッフ一同)



松島フリッツ照子・カールスルーエ独日協会会長のご自宅で夕食会



アルベルト・ルートヴィヒ・フライブルク大学 Ulrike Wallrabe 教授の研究室にて



Erika Träger 副市長と Sibylle Rauscher パッサウ独日協会会長によるパッサウ市庁舎大ホールでの歓迎会



平成 28 年にホストファミリーで受け入れたセヴェリン君のお宅での夕食会

「秋田ユネスコ協会主催のニューイヤーフェスタにて」

理事 加賀谷ユウ子

年が明けて二週間後の一月十四日、寒中にしては珍しく穏やかな一日、ジョイナスに於いて秋田ユネスコ協会主催のニューイヤーフェスタが開催された。

秋田ユネスコ協会より秋田日独協会に対しそのイベントへの出演依頼があり、即席の有志十名でドイツ語の歌を歌ってきた。当日は「浜辺の歌」・「五月の唄（春のあこがれ）」、そして添野会長の日独協会の活動の紹介、また来年の友好 35 周年の訪独への誘いも兼ねてのコマーシャルをはさんで、最後にお得意の「ローレライ」で締めた。出演順番が一番目だったこともあり、観衆の反応を確かめるゆとりが無かったが、ちょっとした達成感を味わうことが

できたかと思う。なにしろ練習はたったの一日、それも 1 時間半のみということを考えるとまずまずの出来と言えよう。

実は私はユネスコのメンバーでもあり、このイベントの司会も兼ねていたので、全く余裕が無く、ドイツの次の出演国ロシアの歌と踊りの紹介の時、何度もロシアと言うべきところをドイツと言い間違い、観客から「ロシア、ロシア」と指摘される一幕もあった。ドイツが身に染み付いている自分が、恥ずかしくもあり、また嬉しくも感じられた。

ドイツの他、ロシア、韓国、フィリピン、インドネシアの歌や踊り、そしてその合間にそれぞれ自国の文化や現状が語られ、私達の国際理解がまた一つ広がった気がした。

最後に日本の懐かしい歌を数曲、オカリナとピアノの伴奏に合わせて大きな声で歌い、新年を祝った。



ドイツ語で格言・諺 : Wenn alte Hunde bellen, sieh hinaus!

老犬が吠える時は外に注意せよ、老人の言葉には耳を傾けよ

《編集後記》

秋田市には 5 つの姉妹都市・地域がありますが、その中でもパッサウ市との交流が一番盛んなのではないのでしょうか。来年はパッサウ市との姉妹都市提携 35 周年です。アニバーサリーイヤーに向けて今年から大いに気持ちを盛り上げていきましょう。

会員の皆さんからの寄稿やメッセージ、そして、ドイツに関する話題などを広く募集します。送り先は、表紙の事務局の住所へ、または、メールにてお送りください。秋田日独協会ホームページ <http://www.jdg-akita.org>

法人会員

(株)秋田魁新報社様・(株)JTB 東北秋田支店様・(株)東北 i ツアーズ・(株)日本旅行東北秋田支店様